

第27回外務省政策会議 (概要記録)

日時：4月27日 午前9：10～9：50

場所：衆議院第1議員会館地下1階 民主党A会議室

出席議員の概数：15名程度

議題：

- (1) NPT運用検討会議に向けた我が国の取組について
- (2) イランの核問題について
- (3) その他

第1 外務省からの説明

1 NPT運用検討会議に向けた我が国の取組について【事務方】

配布資料に沿って説明。

2 イランの核問題について【事務方】

配布資料に沿って説明。

3 タイ・キルギス情勢【事務方】

- (1) クーデター等が政府開発援助に影響を与えた事例に関する資料を配付。
- (2) キルギス情勢における情報収集について説明。

第2 質疑応答

1 NPT運用検討会議に向けた我が国の取組について

(質問・コメント)

- ・ 唯一の被爆国として、原爆被害の記録映像をさまざまな機会に見せるため、外務省においてまとまったものを所有しているか。
- ・ NPT運用検討会議には日本として総力を挙げて取り組む必要があるが、同会議に向けた各種団体やNGO等の取組を政府は把握しているのか。
- ・ 北朝鮮はNPTから脱退しているとの認識か。
- ・ NPT運用検討会議において、非核兵器地帯については、日本はどのような主張をしようと考えているのか。
- ・ 北東アジア非核兵器地帯について成立を可能とする「条件」について、政府としても議論してよいのではないか。

(回答：福山副大臣/事務方)

- ・ 政府としても軍縮関連の国際会議などにおいて、被爆者の証言を聞いて貰うような機会を設けてきている。
- ・ N P T 運用検討会議に参加する N G O 等の動向については政府として把握している。
- ・ 我が国は、北朝鮮は N P T を正式に脱退していないとの立場である。
- ・ 北東アジア非核兵器地帯構想については、まずは、北朝鮮の核問題の解決が先決であるというのが政府の立場。
- ・ 北東アジア非核兵器地帯構想について議論をする場を設けることは、前向きに検討する。

2 イランの核問題について

(コメント)

- ・ 米国とイランは常に対立しているが、イランと伝統的に友好的な関係を有する我が国まで、その構図に引きずり込まれる必要はない。
- ・ 横浜で「ペルシャ絨毯展」が開催されているが、このようなイベントに外務省政務三役が出席するなど、文化面での交流を深め、独自のアプローチを追求すべき。我が国は資源に乏しいので、その分知恵を絞ってほしい。

(了)